



取材する地域の行事や祭りについて調べる児童たち。6月7日、越前市花筐小

地域の行事 僕らが発信

越前市花筐小に本年度、新聞作りに取り組むクラブ活動「子ども記者クラブ」が誕生した。毎回、プロを講師に招いて、取材の仕方や原稿の書き方をみっちり学習。花筐公民館の力も借りながら地元の伝統行事や祭りを取材し、9月の新聞完成を目指している。郷土に関する新聞作りを通して子どもたちに地域に愛着を持ってもらうと、同公民館が学校に提案、4年生以上が参加する放課後の

越前市花筐小

子ども記者クラブ発足

クラブ活動の一つに加わった。全9回の前期(4〜9月)は児童8人が参加。福井新聞社の徳島泰彦NIEコ―ディネーターや同紙記者らが指導に当たっている。5月に開いた編集会議で、「花筐の行事」「花筐の祭り」をテーマに2班に分かれて取材することを決定。男衆が地区内の家を回り、餅を集めて歩く「迹主の餅」や、継体大王にちなんだ行列「蓬菜祀」など8つの行事を取り上げること

を決めた。6月上旬の活動では、徳島コ―ディネーターや記者から「事前に資料などで調べておくとインタビューがしやすい」「疑問があったら、とことん『なぜ』と質問する」などと取材の心構えを聞いたり、実際に記者が書いた取材ノートの中から「5W1H」(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)を探す課題に挑戦したりして「プロの極意」を学んだ。活動には毎回、花筐公民館の小柳和則館長と宮崎妙子主事が訪れ、地域の伝統行事に詳しい人を紹介するなど児童の活動をサポートしている。2人は「行事や祭りを取材する中で、高齢化や担い手不足といった課題にも気付き、地域を支える意識を高めていってほしい」と期待する。今後、行事の関係者らへのインタビューに挑み、9月に新聞を完成させて校内で発表する予定。「取材するものが面白そう」とクラブ

に入った齊藤拓己君(6年)は「昔から続いている地元の行事をしっかりとアピールしたい。うまく伝えられるか不安だけど誰が見ても分かるような新聞を作りたい」とほりきっていた。10月からの後期はメンバーを入れ替える。(宇野和宏)